

2024.05.19. イエスに出会ってから、なぜ死んだ宗教に戻るのか！

ガラテヤ 2 章 17 節から 18 節

Leitu 牧師

頭を下げ、一緒に祈りましょう。主よ、何よりもまず、私たちにあるすべてをありがとうございます。今朝、あなたへの賛美と礼拝を捧げます。それが私たちを落ち着かせ、あなたに全集中できるよう祈ります。

主よ、あなたの御言葉に触れるとき、御言葉を通して私たちに語りかけてください。主よ、私たちを導くためにあなたが選ばれ連れてこられた牧師たちと共に、あなたが造られたこの教会に感謝します。主よ、牧師たちをあなたの目的のために用い続け、彼らに勇気をお与えください。今朝、レイトゥ牧師があなたの御言葉を伝える時、聖霊で満たしてください。共に過ごすこの時間を感謝します。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

レイトゥ牧師：アローハ！ 会衆：アローハ！ ご着席ください。この礼拝堂（聖域）におられる皆さん、オンラインの皆さんも、日曜日の第二礼拝へようこそ。世界各地からここカネオへの交わりを訪ねて来られ、カルバリー・カネオをホーム・チャーチと呼ばれる多くの皆さんにお会いしてきました。皆さんにお会いできたことは祝福です。JD 牧師も世界中の多くの皆さんにお会いでき祝福されています。JD 牧師は恵みの休暇中です。JD 牧師と彼の家族が安全な旅ができるようお祈りください。主が彼の妻ケリーを癒し続けてくださるよう祈ってください。日曜日は、2 つの礼拝があって、8 時半からの礼拝は、JD 牧師が戻ってきたら、「聖書預言・アップデート」で、10 時 45 分からの礼拝は、新約聖書を通して学んでいます。週の半ばの学びは、ここ礼拝堂（聖域）で、木曜日午後 7 時からです。毎月第一火曜日、午後 7 時から、ここ礼拝堂（聖域）で、私たちは集まり、教会全体で祈りを捧げます。先週は、『信仰によって義とされること』を学びました。「義とされる」あるいは「義」という言葉は、「まるで私が一度も罪を犯したことがないかのように」と定義できることを学びました。今日も引き続き、「ガラテヤ人への手紙」2 章 17 節と 18 節からその学びを見ます。今日のメッセージのタイトルは、『イエスに出会ってから、なぜ死んだ宗教に戻るのか？』

始める前に、頭を下げ、神の御言葉への祝福を祈りましょう。お父様、今日、あなたの御言葉を感謝するため、私たちはあなたの御前に参ります。主よ、あなたが教え導びかれることを感謝します。主よ、今日あなたが私たちに伝えたいと願っておられることへ見る目と聞く耳をお与えください。私たちはあなたを本当に愛しています。あなたが十字架へ御子イエスを遣わされ私たちのためになされたことを決して忘れません。イエスよ、十字架に釘付けにされたとき、あなたが私たちのために受けてくださったあの痛みと恥を決して忘れません。私たちは決して忘れません。今日、あなたの御前に参り、あなたを信じ信頼する信仰者の内に住まわれるあなたの聖霊に感謝します。あなたは私たちのいのちに入れ、私たちを変え、ますますあなたに似た者にし、罪深い自分自身と違っていきます。主よ、あなたが私たちにおいて/通してなさるすべてのことを感謝します。私たちはあなたを愛しています。私たちはあなたを礼拝します。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

アンティオキアの教会は栄え、アンティオキアはガラテヤの町です。現在のトルコです。ユダヤ人と異邦人の信者で構成されていましたが、この教会の大多数は異邦人でした。ガラテヤはエルサレムから 136 マイル北にありました。こんにちでは、飛行機で約 1 時間半の距離です。使徒パウロの時代には、ラクダで 4 日かかりました。アンティオキアはローマ、エジプトのアレクサンドリアに次ぐローマ帝国第 3 の都市でした。その周りは、そ、そう、、、今日は英語も話せません。辺り一面、偽りの神々の壮麗な神殿や偶像がありました。この都市は人口が多く、イエス・キリストの福音が伝道され、人々は救われていきました。使徒パウロがこの教会を始め、牧会し、成長しています。再度、ユダヤ主義者たちはイエスへの信仰を公言するユダヤ人でしたが、福音のシンプルさを問題にしました。福音にはモーセの律法の厳格な遵守が含まれるべきだと考えていました。先週、パウロがこう言いました。

「人はだれも、律法を行うことによって神の前に義と認められないからです。」（ローマ 3：20 参照）

あなたが頼りにする行いは、あなたを救うことはできません。イエス・キリストを信じる信仰によっての

み、あなたは救われます。歴史を通し、ユダヤ人と異邦人は常に互いに問題がありました。異邦人とは、ユダヤ人ではない全世界の人々のことです。ユダヤ人は、異邦人を神の救いに値しない罪びととして見下していました。異邦人は、ユダヤ人を軽蔑し、見下すだけでした。ユダヤ人の偽善とその他の問題のせいです。歴史を通じ、イスラエルと異邦人との間には多くの戦いがありました。毎晩ニュースを見ていると、この古くからの問題が続いているのがわかります。こんにち、反ユダヤ主義、ユダヤ人への迫害は世界中で拡大しています。各国がユダヤ人に圧力をかけています。聖書は、預言者ゼカリヤ(12章)が語ったように、すべての国がイスラエルを見捨てる日が来ると告げます。アメリカでさえ、いつかはイスラエルへの支援を放棄するでしょう。イスラエルがあちこちの敵と戦い続ける時、イスラエルは孤独ではありません。ゼカリヤは14章3節でこう語ります。

#### ーゼカリヤ 14 : 3ー

**神(主)が出て行かれる。決戦の日に戦うように、それらの国々と戦われる。**

「ゼカリヤ書」2章8節は語ります。「あなたがたに触れる者は、わたしの瞳に触れる者。」(ゼカリヤ 2 : 8 後半) イスラエルは神の瞳です。ですから、ユダヤ人に対する扱いには注意してください。「エゼキエル書」38章で、イスラエルに敵対する同盟国家連合国の預言を見ます。再び、前回同様、神はイスラエルに勝利を与えられます。世界にはユダヤ人を愛する人々が残っています。私もその一人です。アラブ人のJD牧師もです。私はイスラエルのユダヤ人を国家として愛しています。彼らを通して、私たちの聖典の聖書が生まれたからです。モーセは聖書の最初の五書を書きました。ユダヤ人を通して、救世主イエスが誕生されました。全世界を構成するユダヤ人と異邦人は今、救われる機会があります。パウロは、ユダヤ人と異邦人の間に歴史的な違いがあろうとも、それは問題ではないと宣言します。ある日イエスが戻られます。世はついに平和になります。その時まで、すべての国の人々に救いの機会があります。それは、イエス・キリストをあなたの救い主として信じることによってです。それは、人の行い、あるいは人によって達成されることではありません。先週の箇所「ガラテヤ人への手紙」2章16節、

#### ーガラテヤ 2 : 16ー

**人は律法を行うことによってではなく、ただイエス・キリストを信じることによって義と認められると知って、私たちがキリスト・イエスを信じました。律法を行うことによってではなく、キリストを信じることによって義と認められるためです。というのは、肉なる者はだれも、律法を行うことによっては義と認められないからです。**

今週も「ガラテヤ人への手紙」2章です。そう、私たちはゆっくり進んでいますが、ここには非常にたくさんの方がいます。「ガラテヤ書」には、私たちが学ぶべきこと、得るべきことがたくさんあります。再び、作者は使徒パウロで元パリサイ人です。パウロはイスラエルの国の高位の指導者で、ユダヤ教という宗教の一員でした。当時は政教分離などありませんでした。国は大祭司、祭司職、パリサイ人、サドカイ人、サンヒドリンと呼ばれるユダヤの法律評議会によって運営されていました。使徒パウロは、イスラエルで権力の座に就く若者として育てられました。両親は、彼を最高の学校に通わせ、当時最高のラビで教師のガマリエルをつけました。その教えの下に座り、パウロは神によって賢く聡明な思いを授けられたので、急速に成長しました。学校ではクラスの誰よりも優秀で、トーラーや口伝律法(ミシュナ: 代々口伝で受け継がれてきた律法)に関する知識も豊富でした。神がユダヤ教という宗教を通しパウロを準備し、それからパウロをユダヤ教から取り除かれたのに驚かされます。しかし、福音は初めから神のご計画でした。それは「創世記」で私たちのために示されました。アブラムは信じ、正しいとされ、義とされました。(創世記 15 : 6)

それがアブラムだけでなく、ユダヤ人も異邦人も含めた全人類に天国への扉が開かれました。「イザヤ書」5章8節から9節、

#### ーイザヤ 55 : 8ー

**「わたしの思いは、あなたがたの思いと異なり、あなたがたの道は、わたしの道と異なるからだ。一主のことば—**

天が地よりも高いように、わたしの道は、あなたがたの道よりも高く、わたしの思いは、あなたがたの思いよりも高い。

私たちは神を解明しようとしませんが、わかるはずありません。私はこう祈りました。私たちが主を理解しようとするのではなく、主と一致し、私たちの人生への主のご計画に従うように。いつもお話しするように、神は全知であります。神はすべてをご存知です。私たちが反抗せず、主に従うなら、神は私たちのために偉大で素晴らしいご計画があらわれます。使徒パウロはイエスと必死に戦い、彼自身がクリスチャンを投獄し殺しました。パウロの改心は、彼の人生において重要な瞬間でしたが、それはまた、歴史においても重要な瞬間でした。再び、使徒パウロが新約聖書の3分の1を書きました。パウロはついに光（イエス）を見、シリアのダマスカスへの道でへりくだりましたパウロ自身、イエスを愛し、イエスに従ったために投獄され、殉教の死を遂げました。パウロが救われる前のことを想像すると、パウロが聖典やユダヤ教の教理を学ぶことは、神との関係にストレスをもたらすだけでした。パウロは神への熱意がありましたが、それはモーセの律法への服従に基づきました。以前、トラーナーには613の律法があると話しました。ミシュナ（口伝律法）にも同様に多くの律法があり、パウロはそれらすべてを知っていました。パリサイ人として、パウロは律法の細部に至るまで細心の注意と努力を払いました。彼が挫折し、罪を犯した時のストレスを想像してみてください。もちろん、パウロは罪を犯しました。各々の律法を綿密に守ることができず、意気消沈するばかりでした。罪の咎め/非難が、私たちの心を打ちのめすのと同じように、罪の咎め/非難は、パウロの心を打ちのめし続けました。その罪は、彼の思考の中に常に存在していました。忘れないでください。罪とは私たちがすることだけではなく、私たちが考えることでもあります。JD牧師が昔よく使った言い回し、こんな感じですか。「私たちは臭い考えがあります。首から上の健康診断が必要です。」（姿勢/態度の見直しが必要。）多くの人が覚えていると思います。パウロにとって、彼の罪のいけにえとして動物を取り、殺すことができたので、いくらか安心がありました。でも間違いなく罪の記憶は残り、罪の咎め/非難も残りました。しかし、それからパウロはイエスに出会い、パウロのすべてが変わりました。ヘブル語の名前サウルの代わりに、ローマ名のパウロを使います。パウロは主を信じる信仰によって義とされました。パウロは救われただけでなく、罪の咎め/非難もなくなりました。東が西から遠く離れているように彼の罪を彼から離され、許されたからです。（詩篇 103：12参照）

神はもうその罪を覚えておられません。今やパウロの心には、喜びと平安があり、以前よりも神への愛が強くなりました。パウロはユダヤ教のパリサイ人として、常に神への熱意はありましたが、今その関係にアガペーの愛が加わります。今やパウロは、「(特定の)道/The Way」に従う者です。人々はイエスをそう呼びました。当時のクリスチャンをそう呼びました。パウロは、いつも同胞のユダヤ人を大切にしてきましたが、今は敵だった異邦人にも愛があります。異邦人は、今や彼の新しい家族です。新しい家族との絆が深まり、この絆は血縁関係の家族よりも強いのです。神が自分にしてくださったことへの感謝から、彼の愛は強まります。パウロはその愛を新約聖書の記述を通して示します。パウロはユダヤ主義者たちに対して、自分の信仰のために立ち上がりました。パウロが立ち上がるのは気にかけるからであり、気にかけるのは愛しているからです。神の御言葉がようやく理解できるようになったので、パウロの愛も強まりました。ユダヤ教で学んだ預言のパズルのピースがはまり始めます。預言者たちが救世主について語り書いたすべての預言を、イエスが成就されたことを、イエスが油注がれた者であることを、パウロは気付きます。「メシア(Messiah)」は、ヘブル語の「マシーアッハ(Mashiach)」に由来します。「油注がれた者」「選ばれた者」という意味で、ギリシャ語で「キリスト/救世主」または「キリストス」です。「油注ぎ」とは、特別な働きのために油を注いで聖別し、その人を備えることです。イスラエルは、ローマ帝国の占領を打ち破る救世主の到来を待っていました。救世主は戦士として、征服する王として描かれていました。彼らは、人類が救われるために、ご自分の命を犠牲として捧げるためにイエスが来られたことを理解しませんでした。パウロが「イザヤ書」の記述に気付き、ワクワクしたのが想像できます。「イザヤ書」53章は、神からの預言的御言葉です。油注がれたお方、イエス・キリストの十字架と死について。イザヤは、救い主イエス・キリストが生まれる約700年前に預言し書きました。「イザヤ書」の預言から、イエスが実際に誕生するまでの700年という時間の経過を考えると、アメリカは誕生してまだ247年しか経っていません。「イザヤ書」53章全て読むことをお勧めします。その章から数節を引用します。「イザヤ書」53章4節から、

ーイザヤ 53：4ー

まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みを担った。それなのに、私たちは思った。神に罰せられ、打たれ、苦しめられたのだと。

ーイザヤ 53：5ー

しかし、彼は私たちの背きのために刺され、私たちの咎のために砕かれたのだ。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、その打ち傷のゆえに、私たちは癒やされた。

ーイザヤ 53：6ー

私たちはみな、羊のようにさまよい、それぞれ自分勝手な道に向かって行った。しかし、主は私たちすべての者の咎を彼に負わせた。

ーイザヤ 53：7ー

彼は痛めつけられ、苦しんだ。だが、口を開かない。屠り場に引かれて行く羊のように、毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように、彼は口を開かない。

今日の学び「ガラテヤ人への手紙」2章17節と18節を取り上げます。

ーガラテヤ 2：17ー

しかし、もし、私たちがキリストにあつて義と認められようとするので、私たち自身も「罪人」であることになるのなら、キリストは罪に仕える者なのですか。決してそんなことはありません。

ーガラテヤ 2：18ー

もし自分が打ち壊したものを再び建てるなら、私は自分が違反者であると証明することになるのです。

NLT 訳(英語版)ではこうです。

ーガラテヤ 2：17ー (NLT 訳直訳)

しかし、キリストを信じる信仰によって神との正しい関係を築こうとする私たちが、律法を放棄したために罪ありとされるなら、キリストが私たちに罪に導いたということなのですか？ とんでもない。

ーガラテヤ 2：18ー (NLT 訳直訳)

むしろ、すでに壊した古い律法のシステムを再構築するなら、私は罪びとなのです。

パウロは、ペテロとアンティオキアの教会に続けて対処します。この数週間（の学び）を思い出してください。パウロはペテロの偽善を叱責しました。ユダヤ人たちは異邦人信者たちと素晴らしい交わりをしていましたが、そこにユダヤ主義者たちが現れました。ユダヤ主義者がアンティオキア教会に立ち入るとすぐに、ペテロとユダヤ人クリスチャンたちは、偽善によって、異邦人信者たちから離れました。異邦人から傷ついた感情が生まれ、この教会で成長していた愛に代わって、昔からの対立や互いへの憎しみに替わりました。二枚舌/欺瞞は、パウロには酷すぎました。パウロは一人だけで立ち上がりました。ペテロは使徒の指導者でした。パウロは、神の叱責をイエスと3年を共にしたペテロに向けました。今日の聖句、「ガラテヤ人への手紙」2章17節、パウロはこう言います。「ユダヤ人の新しい信者をモーセの律法を捨てたと非難し、また、イエスがこれらのキリスト教改宗者を罪に導いていると非難する人々がいた」と。パウロはこう言います「いいえ、絶対に違います。イエスを信じることによって、私たちは律法を捨てたわけではありません。違います。イエスは誰も罪に導いておられません。」このユダヤ主義者たちを想像する時間を皆さんに、少し差しあげます。それと、私は水が飲みたかったのです。ー(笑)ー ユダヤ主義者たちは、イエスを信じるユダヤ人たちが神から授かったモーセの律法を放棄していると非難しました。ユダヤ主義者たちは、ユダヤ教からイエスに改宗した同胞のユダヤ人を辱め、信用を失墜させようとしました。彼らは同胞に罪の意識と非難と共に、屈辱を与えました。ユダヤ人信者にとって、これは痛手でした。彼らは、ユダヤ教とトーラーとそ

の多くの律法の中で育ち、それが彼らが知る全てでした。彼らが改宗したのは、福音が自由をもたらしたからで、その自由は神との真の愛の関係があります。ユダヤ教とは、全てが律法主義と律法で、自由を与えることができませんでした。再び、それが宗教が人間にすることです。すべて世の宗教は、パウロが咎め、非難したものを土台とします。律法の行いによって、義とされる人間はいません。訳すと：天国への道はあなたの行いではありません。罪の問題がまだ残るからです。すべての宗教は、罪悪感、恥、罪に焦点をあて、善行によってのみ譲歩されるという誤った話と教えを広めます。キリスト教は世界で孤立しています。私たちの信仰は、世界中の宗教や信仰とはまったく異なり、正反対です。私たちの信仰は宗教ではありません。それは、真の生ける神とその御子イエス・キリストとの関係です。真の生ける神との関係においてのみ、この罪の問題は正され、満たされます。新しい信者、ユダヤ人と異邦人、彼らはユダヤ教とその律法のすべての側面を必要としませんでした。彼らは新生/生まれ変わり、天国が彼らの最終目的地となりました。イエス・キリストへの信仰と新生/生まれ変わることで、聖霊が彼らの内に臨まれ住まわれました。神の聖霊が私たちの人生に前向きな変化をもたらされます。私たちには出来ません。ユダヤ人の改宗者に起こったことは、異邦人にも起こりました。聖霊が臨まれ、彼らに内住され、彼らの人生を導き、案内され、変えられました。イエスに信仰を置いた異邦人には、そもそも律法はありませんでした。この新しい愛の姿勢をもたらしたのは、彼らの内なる神であられ、世のどの宗教も主張できないことです。聖霊の内住を理解することは極めて重要です。今日はこのことを見たいのです。先週、話したのは、イエスの出会いの後のニコデモの改心についてです。「ヨハネの福音書」3章にその記述があります。イエスとニコデモの話し合いをもう一度振り返ります。私はこの話し合いで、イエスが聖霊を「風」と表現される箇所を指摘したいのです。イエスはニコデモに、新生/生まれ変わるとはどういうことか説明されます。「ヨハネの福音書」3章3節から、

—ヨハネ 3：3—

イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに言います。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」

—ヨハネ 3：4—

ニコデモはイエスに言った。「人は、老いていながら、どうやって生まれることができますか。もう一度、母の胎に入って生まれることなどできるでしょうか。」

—ヨハネ 3：5—

イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに言います。人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることはできません。」

—ヨハネ 3：6—

肉によって生まれた者は肉です。御霊によって生まれた者は霊です。

—ヨハネ 3：7—

あなたがたは新しく生まれなければならない、とわたしが言ったことを不思議に思ってはなりません。

—ヨハネ 3：8—

風は思いのままに吹きます。その音を聞いても、それがどこから来てどこへ行くのか分かりません。御霊によって生まれた者もみな、それと同じです。」

「第二コリント人への手紙」5章17節は語ります。

—II コリント 5：17—

ですから、だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。

それが私でした。私は新しく造られた者です。私は、古い自分が過ぎ去るのを感じました。私のいのちは新

しくなり、神はこの24年間、どんどん良くされています！皆さんの多くがそうであるように、私もクリスチャンとして多くの試練を経験してきましたが、神は其中で私と共におられ、そのすべてから私を救い出してくださいました。私はその試練を乗り越えて成長してきました。信仰ある皆さんの多くも、逆境を乗り越えて成長されてきたことを私は知っています。「第二コリント人への手紙」1章21節から22節は、信じる者のうちに聖霊が内住されることを証明します。

#### ーII コリント 1：21ー

私たちがあなたがたと一緒にキリストのうちに堅く保ち、私たちに油を注がれた方は神です。

#### ーII コリント 1：22ー

神はまた、私たちに証印を押し、保証として御霊を私たちの心に与えてくださいました。

22節はこう語ります。神は私たちをご自身のものとされました。新ジェイムズ王訳ではこう書かれています。「神はまた、わたしたちに認証をおし、・・・」神は私たちに認証を押し、私たちは新しい所有主の下にいます。私たちは今、神のもので、この世に属すよりずっと良いです。22節はこう語ります。「神の約束された祝福の第一弾。」神が私たちとの約束を決して破られないことを私たちは知っています。「ガラテヤ人への手紙」2章17節の学びに戻ります。イエスがクリスチャンを罪に導いたと非難する人々がいました。イエスは罪を嫌われました。イエスは人間のうちに罪を多く見ておられました。しかし、イエスはまた、当時のイスラエルの宗教ユダヤ教の宗教的指導者たちの多くに、罪を非常に多く見ておられました。イエスは彼らの罪を見、民衆の前で公然と叱責されました。彼らはイスラエルの民の前で恥をかかされました。彼らは、御父の家、エルサレムの宮を軽んじ、商売の家としました。宮は、神への祈りと礼拝の目的のために建てられたのです。イスラエルの宗教指導者たちは、宮を祈りの家ではなく、強盗の巣にしているとイエスに叱責されました。(マタイ 21：13参照)

イエスは罪を憎み、嫌悪し、ご自身は決して罪を犯されませんでした。イエスは神の化身であられ、人の肉体を持つ神であられました。イエスは御父がイエスの人生に置かれた召しをご存知です。再度、イエスはその召しの道が十字架に直結することをご存知です。ユダヤ教のパリサイ人たちは、イエスがサタンを使いであると非難しました。「マタイの福音書」12章24節に書かれています。24節から、

#### ーマタイ 12：24ー

これを聞いたパリサイ人たちは言った。「この人が悪霊どもを追い出しているのは、ただ悪霊どものかしら(ベルゼブル)によることだ。」

#### ーマタイ 12：25ー

イエスは彼らの思いを知って言われた。「どんな国でも分裂して争えば荒れすたれ、どんな町でも家でも分裂して争えば立ち行きません。」

#### ーマタイ 12：26ー

もし、サタンがサタンを追い出しているのなら、仲間割れしたことになります。それなら、どのようにしてその国は立ち行くのですか。

#### ーマタイ 12：27ー

また、もしわたしが、ベルゼブル(サタン)によって悪霊どもを追い出しているとしたら、あなたがたの子らが追い出しているのは、だれによってなのですか。そういうわけで、あなたがたの子らが、あなたがたをさばく者となります。

#### ーマタイ 12：28ー

しかし、わたしが神の御霊によって悪霊どもを追い出しているのなら、もう神の国はあなたがたのところに来ているのです。

悪霊に取り憑かれた男は目が見えず、話すこともできませんでした。彼はイエスのもとに連れて来られました。イエスは彼を癒されました。ですから、この男は見ることも話すこともできるようになりました。群衆は驚いて、これが救世主なのかと尋ねました。パリサイ人たちは、イエスがサタンから力を受けていると

非難しました。まず、思い出して欲しいのは、サタンがその力を利用していること。癒すためではなく、盗み、分裂させ、非難し、滅ぼすためです。イエスは癒しと救いのために来られました。28 節で、イエスは仰います。イエスが神の御霊によって癒され、悪霊を追い出しているのなら、神の国は来ているのです。神の国は来ているのです。しかし、ユダヤ人の大半は盲目で、分かることができませんでした。イエスはこう仰いました。正しいことを行う者は、神の国で偉大な者と呼ばれます。「マタイの福音書」5 章 19 節は語ります。

#### —マタイ 5 : 19—

ですから、これらの戒めの最も小さいものを一つでも破り、また破るように人々に教える者は、天の御国で最も小さい者と呼ばれます。しかし、それを行い、また行うように教える者は天の御国で偉大な者と呼ばれます。

イエスは生涯を通じて、ご自分が生まれた目的をご存知でした。イエスは十字架での犠牲の死が、イエスを信じる多くの人々を救うことをご存知でした。イエスは、ご自分が痛みを通り経験することをご存知でした。それでも、イエスは行かれました。イエスは、御父であられる神が私たちのためのいけにえとしてご自分を遣わされたことを理解しておられました。イエスは御父が受け入れてくださる完全な犠牲は、ご自分だけだと知っておられました。完全な人生を送った唯一の人だからです。イエスは御父を愛しておられる故に、私たちが愛され、御父に従われました。イエスが憎まれた私たちの罪を取り除くことができになりました。「マタイの福音書」16 章 21 節は語ります。

#### —マタイ 16 : 21—

そのときからイエスは、ご自分がエルサレムに行つて、長老たち、祭司長たち、律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され、三日目によみがえらなければならないことを、弟子たちに示し始められた。

ですから、イエスは、ある人々が主張するように、他人を罪に導いたと非難されることは決してありません。十字架がイエスの前途に横たわっていることに対して、イエスは準備され不動であられました。イエスの打たれた傷によって、信じるユダヤ人も異邦人も癒され、赦されました。まるで彼らが罪を犯さなかったかのように。イエスは決して罪を犯されませんでした。以上。イエスがされたことは、聖書の真理を教え、福音を説くことであられました。十字架につけられる直前に、イエスは、当時イスラエルのローマ総督のピラトにこう答えられました。このことは「ヨハネの福音書」18 章 37 節に書かれています。

#### —ヨハネ 18 : 37—

イエスは答えられた。「わたしの国はこの世のものではありません。もしこの世のものであったら、わたしのしもべたちが、わたしをユダヤ人に渡さないように戦ったでしょう。しかし、事実、わたしの国はこの世のものではありません。」

#### —ヨハネ 18 : 38—

そこで、ピラトはイエスに言った。「それでは、あなたは王なのか。」イエスは答えられた。「わたしが王であることは、あなたの言うとおりで。わたしは、真理について証しするために生まれ、そのために世にきました。真理に属する者はみな、わたしの声に聞き従います。」

ピラトはイエスを鉛の先がついた鞭で打たせました。(ヨハネ 19 : 1 参照) 兵士たちは、茨で冠を編んでイエスの頭にかぶせ、紫色の衣を着せた。(ヨハネ 19 : 2)

彼らはイエスに近寄り、「ユダヤ人の王様、万歳」と言って、顔を平手でたたいた。(ヨハネ 19 : 3)

それを理解した人たちは、あのローマが考案した十字架上で驚くべき愛の表れを見ました。そうでない人た

ちは、イエスをあざけり続けました。こんにち、私たちの世でも同じことが起きています。多くの人々がイエスを否定し、あざけり続けています。「ヨハネの福音書」19章16節から18節は語ります。

ーヨハネ 19：16ー

ピラトは、イエスを十字架につけるため彼らに引き渡した。彼らはイエスを引き取った。

ーヨハネ 19：17ー

イエスは自分で十字架を負って、「どくろの場所」と呼ばれるところに出て行かれた。そこは、ヘブル語ではゴルゴタと呼ばれている。

ーヨハネ 19：18ー

彼らはその場所でイエスを十字架につけた。また、イエスを真ん中にして、こちら側とあちら側に、ほかの二人の者を一緒に十字架につけた。

ユダヤ人たちがイエスを不当に訴えたのは、罪のためではありませんでした。イエスは一度も罪を犯したことはあられなかったからです。「出エジプト記」12章には、イエスの描写や型を見ます。過越の犠牲です。「出エジプト記」12章13節は語ります。

ー出エジプト 12：13ー

その血は、あなたがたがいる家の上で、あなたがたのためにしるしとなる。わたしはその血を見て、あなたがたのところを過ぎ越す。わたしがエジプトの地を打つとき、滅ぼす者のわざわいは、あなたがたには起こらない。

「出エジプト記」12章で、神はイスラエル人に子羊か山羊をいけにえに捧げるよう示されました。傷のない1歳の雄で、完璧でなければなりません。子羊の血は、入口の両側（二本の門柱）と鴨居に塗られました。これは、十字架が考案される前の十字架の描写です。彼らは子羊を焼いて食べ、食べ残しはすべて燃やしました。子羊の肉は種なしパンと苦菜を添えて食べねばなりません。（出エジプト 12：8参照）その夜、神は、エジプト中の人から家畜に至るまで、すべての長子を打たれました。（エジプト 12：12参照）「出エジプト記」の子羊は、イエスの予型です。信仰によって従った者は救われました。彼らはその家の門中と鴨居に血を塗らねばなりません。子羊は完璧で、傷ひとつないものでなければなりません。欠陥のない子羊がいけにえに捧げられました。そして、その守られた家にいた者たちが子羊を食べました子羊は彼らのうちにいました。イエスが完璧な神の子羊であられるように、聖霊の内住によって、信じる私たちのうちにおられます。今日の説教について調べ、黙想していた時、イエスが私のためにしてくださったことで、複雑な気持ちになりました。パウロのように、私は罪から逃げることはできません。信者の皆さんは、私の話していることがわかりますね。罪から逃げることはできません。私が何をするかというより、何を考えるかです。身近な人々に福音を十分に伝えられないことへの苛立ち。しかし、私は神がこう仰るのを思い出します。

「何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。」（ペリピ 4：6）

すべての理解を超えた（神の）平安が私の心を守ってくれます。（ペリピ 4：7参照）私はキリスト・イエスのうちにあり、イエスが私のうちにおられるからです。イエスが私のために死んでくださいました。私は決して忘れません。あなた同様、私もこの世にうんざりしています。正直に、私は家に帰り、主と共にいたい。あなた同様、携挙を祈っています。その前に死ぬなら、あまり痛くないことを願います。あなた同様、私はイエスが私のためにしてくださったことを決して忘れません。イエスの誕生から十字架、そして復活までを。イエスは、一番最初に復活し、天国におられます。私たち信じる者は、イエスに従います。イエスよ、ありがとうございます。私たちの学びの箇所、18節を取り上げます。文脈上17節を再度読みます。

ーガラテヤ 2：17ー



しかし、もし、私たちがキリストにあって義と認められようとするので、私たち自身も「罪人」であることになるのなら、キリストは罪に仕える者なのですか。決してそんなことはありません。

ーガラテヤ 2：18ー

もし自分が打ち壊したものを再び建てるなら、私は自分が違反者であると証明することになるのです。

パウロはこう言います。「福音の真理から目を背けることは罪である。」ペテロや、ユダヤ主義者を恐れた多くのユダヤ人たちは、彼らから圧力を受け、ユダヤ教に戻るよう迫られました。彼らがイエスを叫び求め、キリスト教に改宗することによって、ユダヤ人の信者たちは、その古い宗教制度を打ち壊しました。今や、彼らはキリストのうちにある新しい姿勢の新しく造られた者です。彼らは、おそらく以前はなかった神への愛があります。再度、パウロは自分がパリサイ人だった時のことを覚えています。彼はユダヤ人の指導者で、ユダヤ教出身です。毎日が緊張の連続でした。トーラーの律法を守ろうとする不安。その緊張を想像してみてください。あなたが知るあらゆる律法に服従する生活を維持する緊張。私がさきほど話したように、パウロはその全てを知っていました。パウロは、私たちの多く、私たち全員と同じように、対処すべき罪深い性質を持っていました。ですから、パウロのために多くの動物が犠牲になったと想像できます。パウロが落ち込むのは、罪から逃げられないからです。パウロが落胆するのは、彼の思いにおいて、神に喜ばれていないからです。しかし、それからパウロはイエスに出会いました。パウロは自分の救いに大変感謝していました。彼が残りの人生でしたかったことは、神を愛し、神に仕えることでした。パウロは伝道し、手紙を書くことから始めます。ユダヤ主義者たちはパウロを威嚇しようとしたが、パウロの神への愛は人間への恐れよりも大きかったので、強い圧力の前でも耐えることができました。再度、ペテロはこの迫害に屈しました。ですから、パウロは怒り、ペテロを公然と指摘したのを理解できます。パウロはこう言いました。「ペテロよ、なぜ自分を救うことができない死んだ宗教に戻りたいのですか？異邦人にユダヤ人のように生活し、ユダヤ人の伝統や習慣に従うことをあなたは強いるのですか？」(ガラテヤ 2：14参照)

パウロに罪を指摘され、ペテロは恥じました。イエスご自身、このユダヤ主義者たちに対してこう語られました。「マタイの福音書」23章1節から、

ーマタイ 23：1ー

そのとき、イエスは群衆と弟子たちに語られた。

ーマタイ 23：2ー

「律法学者たちやパリサイ人たちはモーセの座に着いています。

ーマタイ 23：3ー

ですから、彼らがあなたがたに言うことはすべて実行し、守りなさい。しかし、彼らの行いをまねてはいけません。彼らは言うだけで実行しないからです。

ーマタイ 23：4ー

また彼らは、重くて負いきれない荷を束ねて人々の肩に載せるが、それを動かすのに自分は指一本貸そうともしません。

ーマタイ 23：5ー

彼らがしている行いはすべて人に見せるためです。彼らは聖句を入れる小箱を大きくしたり、衣の房を長くしたりするのです。

ーマタイ 23：6ー

宴会では上座を、会堂では上席を好み、

ーマタイ 23：7ー

広場であいさつされること、人々から先生と呼ばれることが好きです。

ペテロは一瞬判断に迷いましたが、聖霊の御力を知っていました。ペテロは、イエスから与えられた御霊の力によって、足の不自由な人を癒すことができました。ペテロは同様に聖霊の内住も知っていました。「使徒の働き」で、それが書かれている箇所を私たちは読みました。屋上の部屋で使徒たちに炎のような舌が分かれて現れ、一人ひとりの上にとどまりました。(使徒 2 : 3 参照)

ペテロはまた、コルネリウスの救いの証人です。コルネリウスは異邦人で、神を愛するローマ兵でした。神がこの二人の出会いを振り付けし、導かれました。神は様々な動物が入った敷布を通してペテロに啓示されました。(使徒 10 : 9~16)

このメッセージで、神はペテロに、異邦人が食べる食べ物は、ユダヤ人には汚れた食べ物でも、食べてもよいと告げられました。神は、異邦人を救うために、神の御心が常に望まれることを準備するために、ペテロの思いを整えておられました。異邦人の救いを願う神の御心は、初めから神の御思いでした。アブラハムは、信仰によって神が約束されたことを信じるまでは異邦人でした。ですから、神が何をなされたいか、ペテロの目は開かれました。コルネリウスの家族が救われたことは、ペテロにとって転機となりました。異邦人の救いに対するペテロの確信と信仰は強く、同時に、福音に関してパウロに同意しました。パウロとペテロは、エルサレム公会議でユダヤ主義者たちと戦いました。「使徒の働き」15章でそれを見ました。人間への恐れがペテロを困難な道へと導き、ペテロは後悔したと私は確信します。ペテロは福音の美しさ、シンプルさ、恵みと真理、そして自由を経験しましたが、一度壊した古い律法体系を再構築しようとしたのが間違いでした。これはペテロにとって痛い教訓でした。ペテロは彼の書簡の中で、「第一ペテロの手紙」「第二ペテロの手紙」に多くのことを書きました。ペテロはパウロをキリストの兄弟と認めていました。ペテロは手紙書き、パウロと彼の宣教を守ります。ペテロはパウロを理解できない人がいると書きますが、ペテロの思いは真実でした。「第二ペテロの手紙」3章15節にそのことが書かれています。

## ーII ペテロ 3 : 15ー

また、私たちの主の忍耐は救いであると考えなさい。愛する、私たちの兄弟パウロも、自分に与えられた知恵にしたがって、あなたがたに書き送ったとおりです。

(再度、これはペテロが書いています。)

## ーII ペテロ 3 : 16ー

その手紙でパウロは、ほかのすべての手紙でもしているように、このことについて語っています。その中には理解しにくいところがあります。無知な、心の定まらない人たちは、聖書の他の箇所と同様、それらを曲解して、自分自身に滅びを招きます。

自分が間違っていることを認めるには、強い信仰が必要です。ペテロは自分が間違っていたことを認めました。ペテロは、パウロを愛する兄弟と呼び、神の祝福された知恵がパウロと共にあるのを認めました。ペテロがまさに認めるのは、ユダヤ主義者たちがしていたこと。自分たちの間違った教理を支持するために聖書と神からのパウロの教えをねじ曲げること。こんにち、この世には多すぎるほどの偽りの教理があります。アーメン。神の御言葉である聖書を大切に、学べば、決して迷うことはありません。最後に、「ヘブル人への手紙」の著者が書いたことを分かち合いたいと思います。

## ーヘブル 10 : 31ー

生ける神の手に陥ることは恐ろしいことです。

## ーヘブル 10 : 32ー

あなたがたは、光(キリスト)に照らされた後で苦難との厳しい戦いに耐えた、初めの日々を思い起こしなさい。

## ーヘブル 10 : 33ー

嘲られ、苦しい目にあわされ、見せ物にされたこともあれば、このような目にあつた人たちの同志となったこともあります。

ーヘブル 10：34ー

あなたがたは、牢につながれている人々と苦しみとともにし、また、自分たちにはもっとすぐれた、いつまでも残る財産があることを知っていたので、自分の財産が奪われても、それを喜んで受け入れました。

ーヘブル 10：35ー

ですから、あなたがたの確信を投げ捨ててはいけません。その確信には大きな報いがあります。

ーヘブル 10：36ー

あなたがたが神のみこころを行って、約束のものを手に入れるために必要なのは、忍耐です。

ーヘブル 10：37ー

「もうしばらくすれば、来たるべき方が来られる。遅れることはない。

ーヘブル 10：38ー

わたしの義人は信仰によって生きる。もし恐れ退くなら、わたしの心は彼を喜ばない。」

ーヘブル 10：39ー

しかし私たちは、恐れ退いて滅びる者ではなく、信じていのちを保つ者です。

礼拝堂（聖域）にいる私たち、オンラインの皆さん、イエスに救いを求めた皆さんは、携挙の準備ができていて、天国に行きます。しかし、まだ救われるためにイエスを呼び求めている人たちは、あなたが遅らせないことを祈ります。ただ主にこう言ってください。「イエスよ、私はあなたが必要です。」イエスはあなたの声を聞かれます。イエスはあなたの心を、あなたの誠実な心を聞かれます。主は聖霊を遣わされ、あなたのうちに内住されます。あなたは救われます。天国があなたの最終目的地となります。ご起立ください。祈りましょう。カポノ、、、

お父様、主よ、今日、あなたの御座の前に参り感謝します。主よ、あなたの御心を、あなたの愛の御心を、絶えず不十分な私たちへの憐れみと恵みを、心から感謝します。しかし主よ、私たちは理解しています。あなたが御子をローマの十字架で死なせられたのは、あなたが私たちを救おうとされた道を、私たちが信仰によって、信じることによってだと、理解します。天国は私たちの永遠の目的地です。主よ、私はただあなたに感謝するために、あなたの御前に参ります。主よ、今朝の私のつまずきとつぶやきをお許してください。主よ、あなたの御前に参り感謝します。あなたの聖霊が耳を傾ける者の心に、語りかけてくださることを。主よ、あなたに賛美と栄光と誉れを捧げます。主よ、あなたの大いなる愛、慈悲、優しさに感謝します。イエスよ、私たちは決して忘れません。私たちは知っています。あなたは決して誰も罪へは導かれません。あなたは癒しと救いのために来られたからです。私たちはあなたに感謝します。イエスよ、あなたの御名によって祈ります。アーメン。

---

メッセージ by JD Farag 牧師 カルバリー・カネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7